

## 平成 24 年度第 1 回津波対策専門会議 会議録

開催日時	平成 24 年 9 月 6 日（木）午前 10 時から				
会場	新潟市役所本館 3 階 本部会議室				
出席者	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">委員</td> <td>別紙「防災会議委員名簿」のとおり</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">事務局</td> <td>新潟市危機管理防災局防災課 ほか</td> </tr> </table>	委員	別紙「防災会議委員名簿」のとおり	事務局	新潟市危機管理防災局防災課 ほか
委員	別紙「防災会議委員名簿」のとおり				
事務局	新潟市危機管理防災局防災課 ほか				
議事等	<p><b>1 開会</b></p> <p>（事務局：川村危機管理防災課長補佐）</p> <p>大変お待たせ致しました。定刻となりましたので、ただ今から「平成 24 年度 新潟市防災会議 第 1 回津波対策専門会議」を開催致します。私、本日司会進行を務めます、新潟市危機管理防災局防災課長補佐の川村と申します。宜しくお願いします。以後、座って進行させていただきます。なお、会議の冒頭に放送機による頭撮りをさせていただきますので、宜しくお願い致します。それでは、最初にお手元の資料の確認をお願い致します。次第の他、資料 1～9 までございます。足りない場合は職員が伺いますので、挙手をお願い致します。</p> <p>（資料）</p> <p>資料 1 新潟市防災会議 津波対策専門会議 委員名簿  資料 2 津波対策専門会議 座席表  資料 3 新潟県の津波浸水想定について  資料 4 新潟市の今後の津波対策について  資料 5 新潟市の津波対策の概念図  資料 6 津波対策関係業務スケジュール表  資料 7 津波避難地図作成予備調査概要(平成 23 年度実施)  資料 8 検討事項  資料 9 津波対策専門会議 今後の予定</p> <p><b>2 挨拶</b></p> <p>（事務局：川村危機管理防災課長補佐）</p> <p>それでは、よろしいでしょうか。はじめに、新潟市危機管理監 阿部がご挨拶を申し上げます。</p> <p>（事務局：阿部危機管理監）</p> <p>どうも、皆様おはようございます。本日は、大雨洪水警報という天気で、大変足元が悪い中お集まり頂きまして、有難うございます。またこの度は、皆様、防災会議・津波対策専門会議の委員としてご協力いただく事をご了解頂き大変有難うございます。</p> <p>新潟市は、政令市になりまして今年で 6 年目を迎えておりますけれども、市民の皆様の生命から財産を、自然災害等から守る一義的な義務を持つ基礎自治体と致しまして、新潟の市政の土台、これを市民の安心安全が増すといったところを位置付けまして、取り組ん</p>				

で来ているところでございますけれども、昨年の3. 11大震災、それから新潟福島豪雨といった近年稀に見る災害を受けまして、新たなと言いますか、潜在的な課題が明らかになったという認識が正しいのかと思います。

そのような中で、今年の6月新潟県の方で新たな津波浸水想定が報道されましたけれども、新潟市におきまして、これまでの洪水想定をはるかに上回る被害想定となりました。これを踏まえて、市民の皆様の生命・安全をいかに守って行くか、といった対策を早急にこれから作り上げて行く必要がある訳ですけれども、そんな事を会議の中でしっかりご議論頂いて、新潟市のこれからの津波対策に反映させて行きたいと考えておりますので宜しくお願ひしたいと思います。

ご存知の様に、先月の末に南海トラフの被害想定が出されたわけですが、全国で32万人の方が何もしない場合、生命を落とされるという様な想定が出されています。ただし、事前に耐震化への対応や適切な避難行動等の仕組みをあらかじめ整えることによって、約8割被害の方々の生命を救える、6万人程度に抑えることが出来ます。もっとしっかりした対策があれば、更にそれなりの対応が出来るというような想定が出されています。

津波避難に関しては、特に地震が起きたら高いところに早く逃げるというのが基本ですが、そういった市民の皆様の行動を、いかに事前に、今回検討頂く津波ハザードマップや様々な情報発信を行政として整えて行くか、支えて行くかといった事が重要で、志としては、「被害者ゼロ」といった目標を持って対応して行くべきだろうと考えています。そういう意味で、今回お集まりの皆様にはそれぞれのお立場で、色々ご意見があると思います。忌憚のないご意見を頂いて、実りある会議が出来ればという風に思っておりますので宜しくお願ひ致します。

(事務局：川村危機管理防災課長補佐)

はい、報道機関の皆様、カメラ撮影はここで終了となりますので宜しくお願ひします。普段自己紹介のところまで撮影可能ということでやっておりますので、まず、本日の専門会議委員の出席状況について報告させていただきます。本日は委員11名の全員からご出席を頂いております。ここで委員の紹介に移りますが、資料1の名簿の順に田村委員から所属とお名前でご自己紹介をお願いします。なお、ご発言の際には、狭い会場ではありますが、確実な話合いが出来ますよう、皆様の目の前にありますマイクの利用をお願いします。ご着席のまま、マイクのスイッチを入れ、赤く光りましたら、ゆつとりと発言をお願いします。終わりましたら、もう一度スイッチを押してマイクをお切り下さい。

それでは田村委員からお願いいたします。

(委員：新潟大学危機管理室 田村委員)

新潟大学危機管理室の田村でございます。宜しくお願ひ致します。

(委員：新潟大学災害・復興科学研究所 井ノ口助教授)

新潟大学災害・復興科学研究所の井ノ口です。宜しくお願ひ致します。

(委員：北区自治協議会 高谷委員)

北区自治協議会の高谷（カヤ）でございます。宜しくお願ひ致します。

(委員：東区自治協議会 五十嵐委員)

東区自治協議会の五十嵐でございます。宜しくお願ひ致します。

(委員：中央区自治協議会 藤田委員)

中央区自治協議会の委員の藤田孝一と申します。宜しくお願ひ致します。

(委員：西区自治協議会 小柳委員)

西区自治協議委員 小柳（ヤナギ）でございます。宜しくお願ひ致します。

(委員：にいがた女性会議 高橋委員)

にいがた女性会議運営委員の高橋と申します。宜しくお願ひ致します。

(委員：北陸地方整備局 市村委員)

北陸地方整備局 総括防災調整官をやっております市村（イムラ）と申します。どうぞ宜しくお願ひ致します。

(委員：新潟県警察本部 伊嶋委員)

新潟県警察本部 警備部参事官 警備第二課長 伊嶋（イジマ）でございます。宜しくお願ひ致します。

(委員：新潟市消防局 松田委員)

新潟市消防局 局長の松田でございます。宜しくお願ひ致します。

(委員：新潟市都市政策部 井村委員)

新潟市都市政策部 部長 井村でございます。宜しくお願ひ致します。

(司会：川村危機管理防災課長補佐)

はい、ありがとうございました。

### 3 議事

(事務局：川村危機管理防災課長補佐)

ここでまずご報告があります。座長につきましては「新潟市防災会議津波対策専門会議運営要綱」第2条第2項の規定により、新潟市防災会議会長である新潟市長が指名する事としており、中央防災会議及び新潟県津波対策検討委員会の委員を務めて頂いております

「田村委員」を指名させて頂いております。

それではまず始めに、田村座長様ご挨拶を宜しく申し上げます。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

ご指名に頂きました新潟大の田村でございます。宜しくお願い致します。あの先程、市の方から力強く言葉を頂きまして、津波災害の被災者のゼロを目指すという風にいみじくもおっしゃったので、大丈夫かなという気はちょっとしますが、それを是非、一つ皆様方の話合いの最初の糧として進んで行きたい、皆様方で最終をどこに決定するかという事はありますが、それを目指して一緒に色々と考えて行きたいという風に思います。

それとまた、貴重なお話がもう一つございまして、潜在的な課題が明らかになっただけで、そんなに大きな想定が出てきても驚くことはないんだというようなコメントだったという風に理解をしておりますので、いろんな社会条件が変わるに従って色々な情報が我々に与えられますが、地域の防災力を上げるという意味では心一つにして進んで行けば恐れる事はないという風に受け取りました。

皆さんと一緒に活動して行きたいと思っておりますので何卒宜しくお願い致します。

#### (1) 県津波浸水想定について

(事務局：川村危機管理防災課長補佐)

はい、有難うございました。それでは、ただ今から議事に入ります。田村座長宜しくお願いします。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

はい、ではこちらの議事次第をご覧頂きながら、この次第に乗って今日は進めさせていただきます。今日は10時から一時間半程度という事で11時半までを予定しておりますので、時間管理にも、皆さんご協力を宜しくお願い致します。では、次第の1番という事で県津波の浸水想定について事務局から説明をお願いします。

(事務局：川崎防災課課長)

防災課課長の川崎でございます。それでは着席して説明させていただきます。この6月下旬に公表されました、「新潟県の津波浸水想定」について、ご説明させていただきます。また、合わせまして「新潟市の今後の津波対策」などにつきましても、資料3から資料6までを使いまして、ご説明をさせていただきます。それでは、資料3の「新潟県の津波浸水想定について」をご覧下さい。

津波の浸水想定につきましては、新潟県におきまして、東日本大震災の規模や被害状況を踏まえ、県の津波対策検討委員会で検討してきた内容を取りまとめて、6月下旬に公表をしたものでございます。

まず、今回の津波を引き起こす想定地震については、1ページ目に記載されております6つの地震を想定しています。この想定地震のうち、新潟市に最大の津波被害を与えるの

は、⑤番の長岡平野西縁断層帯地震となります。この断層は、下の図の赤枠の左の方に赤い線が引かれている部分でございますが、長岡方面から続いているもので、この図では、陸側の弥彦・角田から日本海側へ伸びている断層となっております。

また、後ほど説明致しますが、6つの想定地震の他に参考地震と致しまして、⑦、⑧の秋田県沖、山形県沖、新潟県北部沖の3つの地震が同時、または時間差で起こる「連動発生地震」もシミュレーションを行っております。

次に、2ページ目をご覧ください。新潟市域の津波の浸水想定についてご説明致します。この図は、想定される6つの地震ごとに、全ての堤防が機能を喪失した場合に、浸水が想定される地域を重ね合わせた、最大の浸水エリアが示されているものでございます。

従来の想定とは異なりまして、海岸部や河口部だけではなくて、津波の河川遡上によりまして、洪水に似た状況で、内陸部にも浸水が広範囲に広がっております。

堤防の機能の喪失につきましては、従来の想定では河川堤防、海岸堤防は地震発生後であっても、堤防はそのままの高さ、形状を維持して機能するものとして想定が行われておりました。今回は、東日本大震災で堤防が破壊され被害が拡大したことを踏まえ、住民の安全の観点から危険側に立って、堤防が機能しないという悪条件の想定で行っているものでございます。

こうした条件設定等によりまして、図の下に記載している「特徴」や「評価」という風になってございます。

3ページ目をご覧ください。この図は津波の到達時間を表したものでございます。河川の河口部では5分以内の到達時間の部分も見受けられます。内陸部の河川遡上による浸水部分は、浸水までには若干時間がかかり、60分から120分の範囲が広がっております。

次に4ページ目の参考想定についてご説明いたします。この図は、6つの想定地震のほか、参考地震として、秋田県沖、山形県沖、新潟県北部沖の3つの地震が連動して発生した場合の浸水想定を示したものです。

水色の部分が想定6地震の浸水エリアで、緑色などの浸水深で表示されている部分が、3連動の地震によってさらに広がる浸水エリアを示しております。ただし、3連動地震につきましては、図の下にも記載しているとおり、連動地震そのものは参考扱いとするが、津波対策を検討する上ではこれも含めて検討を行う、という取り扱いになっております。

それでは次に、この津波の浸水想定を受けまして「新潟市の今後の津波対策について」ということで資料の4で説明をさせて頂きたいと思っております。資料4をご覧ください。

今後の津波対策の基本的な考え方と致しまして、2点を掲げてございます。一つは、被害の最小化を主眼とします「減災」の考え方に基づき、ハード対策と、避難を中心としますソフト対策を組み合わせて実施するということ。

もう一つは、津波からの避難は、高台への避難を基本として避難場所の確保に努めること、そして、津波が発生したら、率先して避難行動がとれるように、啓発や情報伝達による避難対策を講じることを基本的な考えとしております。

具体的な対策と致しまして、大きく3つに分けて、1つめが「1 啓発・情報伝達などによる避難対策」、2つめが「2 避難場所の指定拡大」、3が「3 津波に強いまちづくり」、

これらの3つに整理をしてございます。

それぞれ主なものについてご説明致します。

最初に「1 啓発・情報伝達などによる避難対策」につきましては、「津波ハザードマップ作成によります避難行動の支援」と致しまして、今回のこの専門会議や地域の皆様の意見を聞く上でも、聞きながら、津波ハザードマップ、津波避難地図のことでございますが、これを作成致しまして、避難行動に活用する事としております。また、「緊急避難のための浸水想定区域での同報無線増設の検討」や、「学校教育における防災教育の推進」をして行く事としております。

次に2の「2 避難場所の指定拡大」につきましては、津波避難場所として、浸水想定区域に近接する高台、公園、駐車場などについて早急に指定を行って参ります。また、津波避難ビルの指定拡大につきましても、公共施設の指定を早急に行い、民間施設の指定拡大を推進して参ります。

最後に、3の「3 津波に強いまちづくり」につきましては、河川掘削土の利用などによる高台や津波避難ビルがない地域での高台整備の検討、避難経路の安全性に配慮した高台への避難路整備を検討して参ります。また、バイパス・高速道路などへの避難階段の整備の要望や、河川・港湾、堤防強化について施設管理者への施設強化を要望するなど、新たな津波浸水想定に伴い、更なる対策強化の要望や、津波に強いまちづくりに向けた様々な対応を検討して行く事としております。今後、これらを視野に入れました地域防災計画の見直しも行う事としております。

続きまして、資料5をご覧ください。今ほど説明させて頂きました津波対策を実施して行くための体制を整理させて頂きました。今回皆様にご就任に頂きました「津波対策専門会議」につきましては、津波対策を実施して行くための課題の調査や検討を行う場として設置させて頂きました。この表の左側に、「津波ハザードマップの検討」などの役割も合わせて記載させて頂いております。

役割として、1番の津波ハザードマップ(津波避難地図)、これの検討の他に、(2)、(3)で津波のソフト・ハード対策の検討、そして(4)で地域防災計画の見直しの検討を掲げてございます。その横の枠が、庁内の関係部署で構成します「津波対策庁内検討会議」でございます。専門会議への素案の検討や、そのまた横の枠になりますが、具体的な対策を実施する対策担当部署との調整等をこの庁内検討会議で行って参ります。

こうした体制によりまして、この表の右側にも記載しておりますが、先ほど説明致しました津波対策を実施して行く事としております。今後、皆様のご意見を頂きながら、対策に反映させて行きたいと考えております。

最後に資料の6をご覧ください。当面の検討課題と致しましては、津波回避の検討課題と致しまして津波避難地図の検討をお願いする事と考えておりますが、その日程案を表の上段に記載させて頂いております。

10月下旬を目途に専門会議での検討を重ね、津波避難地図の素案を決定させて頂きたいという風に書かせて頂いております。11月から地区説明会を経まして年度内の完成を目指しております。また、平行しまして、津波対策担当部署で実施して行きます津波避難

ビルと津波避難場所の指定作業についての日程も記載させて頂いております。

以上で説明を終わります。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

有難うございました。

大きく分けて2つの事を学んで頂けたかと思っております。1つは資料3の新潟県が今後考えるべき津波の浸水想定についての説明と、資料4以降は、それらを踏まえて新潟市がどう進めて行こうと考えておられるかという話だったと思います。

大変恐縮ですが、資料3の所で補足がございます。

東日本大震災で大きく分けて反省点が3つ有ったと思われます。1つ目は、これまで考えていた以上の地震が来てしまったという事。2つ目は、堤防がある程度の効果を発揮したが、沢山の堤防が被災してしまった。3番目は、コメントには無かったのですが、河川を遡上して、町の奥深くに思った以上の水がやって来てしまった。という3つの反省点が有ったと思われます。

1つ目のこれまで想定していなかったような地震が来てしまったという事について、この1ページの1から6までの6つの地震が、新潟を襲う確率が高いと考えられるという事。それと、もしかすると同時に起こったらどうなるのだろうか？という様な事まで考えて、8つの地震まで増やしました。というのが1つ目です。

そして2つ目の、堤防が被災してある程度の効果は得られたという所については、そんな事はないのですが、今回堤防は全く役に立たないと想定して最悪の色塗りを行ったものが、今皆さんの目の前の画面に映っております。

それから、河川遡上（に対する検討）については、今後新潟県の方がもう少し河川を足して進められるので、残念な事にこれよりも浸水区域が広がるかもしれないという3つを踏まえて頂ければよろしいのかと思うところでございます。

よろしいでしょうか？

そしてこの色塗りの意味ですが、見て頂くと津波がやって来て水が溜る高さという風に思ってください。

緑色が20cm～50cm、黄緑色が50cm～1mというふうにどんどん増えていきます。5m・10m・15m以上の色塗りは、河川の場所にしか色塗りされておりません。皆さんのお住まいの地域というのは、赤い所から緑の所まであります。

今回一番驚いたのは、河川の遡上によっては実は直撃を受ける海岸、いわゆる背後地の非常に低いエリアに水が浸水して来る。浸水して来た後、そのまま水が溜って暫くの間抜けられない状況となる。新潟は豊かな地域ですが、水とはめっぽう仲がよく、なかなか排水しないという所が特徴であると、皆様方にご理解頂ければ良いのかと思う所です。

では、この被害想定と新潟市の今後の進め方の体制について、まずはご質問という事でお聞きしたいと思います。ご意見の方は、全て資料の説明が終わってからお聞きする事に

します。

何か今聞いておきたい、良く分からないという事があればご質問下さい。

(委員：東区自治協議会 五十嵐委員)

質問というかお願い事を含んでいるのですが、文言の中で「自治会」という言葉が2つ資料の中で出てきます。今、市の行政の方でコミュニティー協議会という形のもので当然あるわけです。東区の自治協議会は、今後の対策としまして、組織部作りは各コミュニティー協議会を主体として物事を考えております。当然、防災もこの中にありますし、中には自主防災も含む組織もあると捉えて下さい。

その中で物事を決めていくにあたって、資料の中にコミュニティー協議会という言葉が一言も出てきていません。これは今回の話とは若干ずれるのでしょうけれども、市政の考え方もずれている。出来ることなら、「自治会」を「コミュニティー協議会」と文言を置き換えて頂きたい。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

と言うようなご意見という事なので、今後反映させて次回にご了承頂きたいと思います。

(委員：西区自治協議会 小柳委員)

今ほど資料の1から6までのお話合いがありましたが、特に資料を見ますと、西区の浸水状況について、(区域の)大半を占めていると自治協議の中でも話題になっております。特にオレンジ色と黄色の所がほとんど西区の半分以上を占めていまして、避難がほとんど出来ない。10分から20分以内に浸水するという事になっておりますので、避難経路・避難場所の見直しはどのように進むのか、いう様なことが今話題になっております。

西区の防災担当課とも色々と話を進めていますが、個々に自治会なり、コミュニティー協議会などの中で、希望する民間があれば手を挙げて下さいといっているようですが、なかなか進まないというのが現状です。

それから避難場所について、今あそこにありますように東青山からずっと寺尾・内野の方までほとんどの小学校が避難場所です。ほとんどの小学校が水没してしまいます。一次避難場所が公園になっておりますが、それらも水没すると何処に逃げたら良いのか?という事が話題になっております。

工程表にもありますが、2月までにハザードマップを作りたいという事でありまして。区役所、コミュニティー協議会と一体となって、自主防災との兼ね合いについてもどうするのかを早急に話題に出して頂きたい。特に避難場所の設定について、行政の方が主導を取って動かして頂かないとなかなか民間で話しをしても進まない。

この辺の事を1つ考慮して頂きたいという事で、具体的な道筋を是非お示し頂ければと思っております。宜しくお願いします。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)



有難うございました。ご心配は良く分かりました。

基本的には市の方にお任せする事もあるかと思いますが、みんなで考えていきたいと思  
いますので宜しくお願いします。地元の方からもご質問がありましたが、他の二人の方、  
何かご質問はありますか？この際、コメントはございますでしょうか？

(発言無し)

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

有難うございます。

ここの所は皆さんの理解が進んだという事で、また何かあれば戻ってきてご質問なりご  
意見なりを頂ければ良いと思います。とりあえず資料の説明を進めたいと思います。

## (2) 津波避難地図（津波避難地図作成予備調査概要・検討事項1-2）について

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

主題2の津波の避難施設をどう進めて行くかという事で、事務局の方からご説明を宜し  
くお願いします。

(事務局：川崎防災課課長)

それでは、津波の避難施設についてご説明させていただきます。資料につきましては、資料  
の7をご覧頂きたいのと、もう一つサンプルで昨年度作成しました避難地図のサンプル版  
を配布させて頂いております。先程のスケジュールの中で申し上げましたとおり、第1～  
3回の専門会議で主な議事となります津波避難地図についての説明になります。今程配っ  
て頂いたものは、昨年度実施した津波避難地図作成予備調査の概要、調査で作成したも  
のでございます。

資料7を合わせてご覧頂きたいと思えます。資料7が昨年度の予備調査の概要でござい  
ます。サンプル版は、その当時の津波避難地図・津波の浸水想定であり、現在の新しい津  
波の浸水想定を反映したものではありませんので、その当時の津波の浸水想定は万代地  
区を中心としたものでございました。その関係もありまして、上の方に若干、色の線が入  
っておりますが、そこが津波の浸水域という程度のものでございます。

資料7の方で業務の目的・背景という事で、津波による避難の危険性が高く、日頃から  
津波防災意識が高い海岸部の地域を対象に、有効な津波避難地図の作成に必要な市民の皆  
様の意見・ニーズの把握の為に調査をさせて頂きました。

昨年度の1月20日から年度末までの期間でございまして、モデル地区と致しましては、  
北区・東区・中央区・西区・西蒲区のうち、一地域を選定させて頂きまして、調査をさせ  
て頂いております。北区につきましては松浜地区、東区が山の下地区、中央区が入船地区、  
西区が真砂地区、西蒲区が間瀬地区でございまして。

3番になります。予備調査地区の住民説明会での主な住民意見を頂いたという事で整  
理をさせて頂いております。四角囲みの所が住民からの意見でございまして、表面が地図

面になりますが、裏面が災害学習面になります。それぞれに付きましてここに掲載されているようなご意見を伺っております。

そして、抽出された課題という事で、避難先の情報をもっと明確にする・主体的な避難が出来るように方向や経路等の表示方法を工夫する・避難時の状況に応じた具体的な避難行動の指針を掲載する・避難情報の伝達・入手方法を明示する、というような課題が抽出されました。

それらの課題を整理致しまして、ここに当初作ったものから変更後の意見を反映させました変更後のサンプルと、変更後に調整した内容の個別の整理でございます。これらをサンプル版の方に反映させている状況でございます。

津波避難地区の予備調査の概要についての説明は以上でございます。

資料8「検討事項」をご覧ください。津波避難地図を作成します上で、地図仕様を決定する為に、検討すべき項目を記載させて頂いております。検討すべき主な事項の案と致しまして、「1 バッファゾーン」、「2 津波避難地図の住民配布用の形式」、「3 津波避難地図に掲載する項目・内容」でございます。これらについて特に、第2回目以降、具体的な検討を頂きたいと考えております。

「1 バッファゾーン」について説明させて頂きます。資料の8-1をご覧ください。

バッファゾーンと申しますが、今回のシミュレーション、津波の浸水想定でございますが、浸水予測の計算上では浸水しないが、予測の不確実性を考慮すると浸水の恐れがある区域の事でございます。確実な避難の為、災害の特性・地形・居住状況等から浸水予測区域の外側に設定致しまして、浸水想定区域とバッファゾーンを合わせまして要避難区域という風に提示してございます。

その下にありますがバッファゾーンの概念図でございます。要避難区域の設定方法の例と致しまして下に表を掲げてございます。地形的なものから設定する方法という事で、標高による設定。また、行政から見た避難指示領域区分から設定する方法という事で、幹線道路等による設定、町丁目界による設定、このような設定が想定されております。

続きまして、資料の8-2をご覧ください。「2 津波避難地図の住民配布用の形式」についてでございます。こちらは、実際に来年度津波浸水想定区域にお住まいの方を対象に津波避難地図を全戸配布する予定でございますが、この時の避難地図の規格やサイズをどのようにするか、というものでございます。事務局の案と致しましては、先程の「資料7の予備調査」で作成しました地図サンプルのように、A3サイズの表側をマップ、裏側を啓発内容とするもので、ご自宅の壁等に貼り付けて、普段から見て確認してもらう事を想定してございます。

新潟市域の全体を地図で図郭割り致しますと、この表のようなイメージとなります。なお、この度作成する津波避難地図は、新潟市で統一的に作成するものですので、それより詳細な地域密着型のハザードマップ、津波避難地図につきましては、この度作成する避難地図の完成データを、各区役所や各地域の皆様へ提供致しまして、拡大・追加等編集が出来るような形でご利用ができるような形を考えております。

次に、「3 津波避難地図に掲載する項目・内容」についてでございます。こちらについては、ディスプレイの方で井ノ口委員よりご協力頂きまして、ご説明させて頂ければと思います。今簡単に説明させて頂きました資料の1番・2番に付きましては以上でございます。資料は3番はございませんので、ディスプレイの方になります。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

有難うございました。

大卒の質問をさせて頂きたいと思います。かなり急に各論に入ったかなという印象がかなり有ります。全体図を確認したいと思います。この理解としましては、皆さんでこの避難地図というものを1つ真ん中に置きながら、地域の防災対策をどうされていくかという事も検討しつつ地図を作っていくというイメージで理解してよろしいでしょうか？

(事務局：川崎防災課課長)

今回は検討の元になる物という事でサンプルを作りました。

### (3) 検討事項の進め方について

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

資料9に関わってくると思うのですが、普通、対策専門会議に呼ばれるとまずは対策を話し合うのかなと思われませんが、この避難地図の作成から入っていくという事は、ある程度予算取りなども抑えて期限も決まって進んで行っているのかなという印象を持ちます。できましたらこの資料9という所についても合わせて、今どこにいるのかの説明を頂きたいと思います。

(事務局：川崎防災課課長)

それでは資料9の「今後の津波対策専門会議の予定」という事で、次第ですとこの次にご説明する順番になっていたものですが、先に説明させて頂きます。資料9「津波対策専門会議 今後の予定」ということ説明させて頂きます。

津波避難地図を作成する上で、仕様を決める為に検討すべき項目を、この1番上の第1回津波対策専門会議、これが今日の会議でございますが、それ以降、前半は津波避難地図の作成する上で検討すべき事項を1回・2回・3回と、整理させて頂ければと考えております。

1回目につきましては、今回の検討の進め方ですとか、避難地図の説明をさせて頂きまして、第2回目以降に津波避難地図の素案の仕様の整理、また普及活用方法の検討等をさせて頂きたいと考えております。第3回目、10月中旬頃には津波避難地図の素案を作成ということで素案の仕様を確定、そして津波避難地図の素案を決定させて頂いて、それを使いまして、地区の各説明会を開始させて頂きたいという風に考えております。第4回目以降につきましては、津波避難地図の方の検討を終えまして、その他のソフト対策・ハード対策についての検討を開始して頂ければという風に考えております。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

有難うございます。

という事で、資料は一通り事務局からの提案という形で明示させて頂きました。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

理解としては、津波避難地図を早く作成して住民の皆様方に意識を高めて頂くというのが第一義という事で、市の方ではそのような流れとなっております。委員会としては、進め方の方向性については、合意をした上でこの避難地図を3回までは真ん中において、地域のお困り事ですとか、対策が不十分で不安に思っている事はまだまだ有るかと思いますが、その辺も含めつつ話し合いをさせて行きたい、というのが事務局の案という事になります。

そこで本日は、東日本大震災を踏まえた津波の浸水想定で新潟はどうなるのかというのが1つ。新潟市の全体図の進め方というのが1つ。具体的には避難地図を真ん中に置いて話し合いを進めたいというのが1つ。というご提案があったという所です。

本日は、全体象についてのご意見・ご質問・それぞれの立場でコメントがあればお聞きしていきたいという風に思う所でございます。

(委員：中央区自治協議会 藤田委員)

中央区では今、3つの専門部会があってその1つに「人に優しい暮らしの町部会」というのがあります。その中に公的機関の避難場所については既に市が決めてありますが、民間レベルで避難場所をより沢山選んで頂きたいという事で、中央区の22コミュニティー協議会に対して津波アンケート調査・マップの作成を進めています。スケジュールは先程言われた内容とほぼ同じ状況です。そこで質問です。

今、市役所が作ろうとしている地図に、私達が検討している今年の10月31日締切りの22コミュニティー協議会から上がってくる民間施設の避難場所が反映出来るのか？すぐ出来るのか？一旦出来上がってから後で追加するという事なのか？を質問させて頂きました。

(事務局：川崎防災課課長)

年度末までに作ろうと思っている地図につきましては、電子データ的なものでの作成を目指しております。この後、年度末になりますと、新潟県の方も中小河川の河川遡上を反映させたものも出てきます。紙ベースではまだ確定させていただきますともったいない状況になります。電子データ的な物を、またはホームページで公開し加工の出来る物を作ろうとしております。その段階で、新しい施設につきましては取り込める物は随時取り込んでいきたいと考えております。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

ある程度の物を年度末に納めなければいけないので、藤田委員だけではなく、他の皆様にお知らせして、委員会で載せた方が良い物については載せていくという事になります。従いまして、広報もして頂き、ある程度目安を設けて頂くというのはあるのではないのでしょうか？

(委員：中央区自治協議会 藤田委員)

12月末までに提出できれば電子マップと合わせて載せられるという事でならば、それなりの集計作業も努力はして行きたいと思えます。12月31日締切りですから、2ヶ月のスペンを与えて頂ければなんとかなるかと思っております。

(事務局：川崎防災課課長)

それぞれの全市的な津波避難地図と、各自治会・コミュニティー協議会で作られていらっしゃる物とをどのタイミングですり合わせていくのかは、各担当部局と調整させて頂いて、どう取り組んでいけるか検討させて頂きたいと思っております。この場で、すぐに全部出来るという調整がなかなかついておりませんので、申し訳ございません。

(委員：中央区自治協議会 藤田委員)

はい、分かりました。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

では、高谷委員は如何でしょうか。

(委員：北区自治協議会 高谷委員)

北区の場合、松浜地区がほとんどの浸水エリアになる。阿賀野川の河川遡上も影響する。堤防の嵩上げ等行っているが、全体的に整備が遅れています。一番問題なのが避難地図を作る場合、高台が少なくビルも少ないので、避難通路の確保と改修までしっかりと頭に入れて避難地図を作っていないと単なる絵に書いた物になってしまう。より細かくというのは難しいと思いますが、その点を加味して地図作りをして頂けたらと思います。

実際避難する際にどのような行動をとったら良いのかというところ、もう1点心配なのは、要援護者・高齢者・障害者の避難をどのように確保していったら良いのか、その点が大きな問題となっています。その辺りも考えながら、1つの目安ができるように地図作りを進めて行ってはと思います。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

避難経路・要援護者の事も考えて、その辺りも地域でも色々と進み具合が違うという事もあります。その辺りも地図にどのように反映していくのか、という事が課題だという意見を頂戴致しました。

有難うございます。

高橋委員如何でしょうか？良ければ、日頃の活動もご紹介頂いてコメント頂ければ有難いです。

(委員：にいがた女性会議 高橋委員)

サンプルを頂きまして、初めて見たのですがとても良いなと思いました。また、今後細かい所が変わっていくかと思いますが、イメージ出来る形として拝見させて頂いて、自宅に貼って眺めていくという事はとても良い事だと思いました。あと、裏面のところで、語り継ぐ過去の教訓「津波てんでんこ」としっかり入っているので、釜石の奇跡を記載する事はとても良いと思いました。

津波だけではなく火災と一緒に起きているというのはとても怖いという実感があります。津波に火災はつきものなので、何処に避難すれば良いのか？避難場所も無くなってしまいます。しっかりと考えなければならないと思いました。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

有難うございます。

では、火災の話が出ましたところで、松田委員コメント頂けますか？

(委員：新潟市消防局 松田委員)

3.11の被災地の映像を見ますと、津波に流されている所でも火災が発生しています。ポンベなど色々な原因があります。津波で避難地図という事なのですが、どれだけの浸水区域で、どれだけの住民が避難するのか？もう1点は、近くにそれだけの住民を収容させられる建物が有るのか？収容する建物が無ければ何処まで避難するのか、住民が把握していないとなかなか避難が難しくなるのではないのかという感じがします。その辺をどうやって具体的な避難に持っていくのか。

もう1つは、津波の浸水程度によって避難の仕方が全区域違ってくるのか、その辺はどうふうに考えているのか、というのが課題になってくると思います。

消防の活動としましては、消防団を有効に活用致きたいと思いますが、東日本大震災では消防団員が多く亡くなったという事で、津波避難に関しましては、地域住民の方々に理解を頂いて、出来る活動をやっていききたいと思います。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

今回、消防の方だけではなく、行政の皆さんも一生懸命対応されてお亡くなりになられた方が結構いらっしゃって、その辺りは、大分各組織で今度はどうしようなどと方針が出つつあります。普段と同じように消防の方が来てくれる、警察の方が来てくれるというよりは、「津波てんでんこ」も裏の意味はそういう所も入っているかと思いますが、その辺りも上手く一言書ければ良いと思います。

避難の方法等もちゃんと話し合っ、それを反映させた地図を作りたいというようなお話でありました。表面だけではなく、裏面の話し合いも是非進めていききたいと思います。

有難うございます。

市村委員の方から、こういうものを見るとハード整備や河川の方にも気持ちが行くのですが、その辺りはどのようにお考えでしょうか？

(委員：北陸地方整備局 市村委員)

直接地図と関係あるか分かりませんが、現在、先程堤防の話もありましたように、先ず一つは河川の堤防関係、今回の津波想定の部分については「堤防が無し」という状況でやっているのですが、現在国土交通省としましても堤防の耐震化に今年度から予算をつぎ込みまして、地震が来ても堤防が破堤しないように事業を進めていきたい。また、排水機場の樋管・樋門などについても地震時には壊れない、それから防潮堤についても震災対策をきちんとやっていこうという方向で今動いている所です。

併せて、今日は参考までに資料を用意してあります。全国の国道と、協力頂ける所については県・市町村に対して、1 頁目にありますように、簡単に申しますと道路の案内標識というのが各交差点等にありますが、そこに海拔表示を付けていこうという事に取り組んでいるところです。1 頁目の上のところに概要がありますが、全国に5月28日付けでやるようにしております、北陸地方整備局管内につきましては新潟・富山・石川とある訳ですが、ここについてこういうシートをやるという事でブロックごとに委員会を作り、実施する事にしております。今回、富山県・石川県では津波の想定結果が早く出ましたので、既に8月頃から動いている所もあるのですが、新潟県につきましては、9月末から国道を中心に道路の案内標識に海拔表示をしていく予定です。これにつきましては、現在新潟県・新潟市につきましても新潟県部会に入って頂きまして、同じく力を合わせて海拔表示をやっていこうとしている所です。新潟県・新潟市の皆さんについてはどこに設置するのか現在検討している所でございます。

私の方からは以上です。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

有難うございます。良いですね、こういうものが地域で（設置されると…）、何かご意見ございますか？

(委員：中央区自治協議会 藤田委員)

私は、具体的には有明台小学校区のコミュニティー在住ですが、そこには関屋分水があります。関屋分水は40周年記念で、私共代表が5,60名勉強させて頂きまして、大変参考になりました。有難うございました。そこで、みんなで屋上に上がった際、津波の話が出たんです。3m～5m程度の津波が来ると関屋分水 200m幅の堰が下がっているの、それを完全に軽く越えて押し寄せて来るなという事に気付いた訳です。これなんか来たら、機械でバターンと10m位の何かが下がって、止まらないとえらい事になるぞという話になったのですが…

今の話はまあ良いのですが、聞こう、聞こうと思って良い機会なので聞きたい事がある

のですが、関屋分水の堰に将来 5,6mの津波が来ると大変な事になると思うのですが、それについてはどのように対応しようと思っていますか？

(委員：北陸地方整備局 市村委員)

そうですね、その事につきましては問題意識について今持っていますが、なかなか難しい問題も絡んでいて、具体的に言うとなかなかですね。ただそう言いながら、実は内部（河川部）の方で問題意識を持ちまして今一生懸命検討している所で、関屋出張所の位置関係・安全対策等も含めながら全体をどうするのか、今河川部のほうで全体の樋門・樋管も含めて検討している所でございます。また、検討結果等が出た段階で、地元の皆様にもご説明する機会もあるかと思えますし、私の方でもまたこの場でご説明、ご案内できればと思います。今の段階ではまだちょっと詳しい所がないものですから、このような所です。

(委員：中央区自治協議会 藤田委員)

はい、分かりました。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

有難うございました。

では、伊嶋委員に話を伺いたいのですが、いかがですか？

(委員：新潟県警察本部 伊嶋委員)

警察の役割と言いますと、とりあえず避難誘導・必要な交通規制という所がまず津波に対しての第一次的な対応になるかと思えます。先程お話も出ましたように、東日本大震災では避難の呼び掛け等でパトロールカーで出ていったら、警察官が車ごと流されてしまったとか、交差点で交通誘導にあっていた警察官がそのまま流されたとか、非常に悩ましいというかですね、悩みを抱えていて、明確な結論は内部でもまだよく出ていません。ただ、イメージとしては地域の方に避難を呼びかけながら、津波の到達する前に地域の皆さんと一緒に避難をするという対応かなと考えています。

今、この会の進め方という事で話が出ておりますけど、例えばある程度想定に基づいたしっかりしたもの、避難の場所ですとか、経路ですとかがはっきりしてくれば、警察や消防を含めてだと思えますけれども、色々な機関が参加をして小規模ですけど地域毎に訓練をするとか、そういう風なことで日頃から備える事が大事だと考えます。

それから最後に、素人みたいな一つだけ質問させて下さい。浸水の想定ですが、沿岸部の所はずっとこうライン上に色が着いていて、その内陸側が白くなっていて、更にその内側がかなりの浸水予想というなっている。そうすると白くなっている部分というのは、津波は来ないという事でよろしいですか？

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

もちろん不確定要素はあるのですが、土地の高さを考えるとそこよりも低い所に水が溜



まる、直撃を受ける所とその背後地という感じかと思われます。

(委員：新潟県警察本部 伊嶋委員)

直撃を受ける所はラインになっている海岸線の部分で、白い所は津波が到達しないという事、更にその内側が低くなっているのでそこにかんりの、オレンジ色ですと2～3mの水が浸水するという事でしょうか？その浸水するイメージですけど、例えば西区の小針駅の南側では、関屋分水路を遡上してきた津波が溢れて浸水するというようなイメージでしょうか？

そうすると洪水時のように、堤防が壊れなくても堤防を乗り越えて浸水するような、或いは堤防がないという想定みたいですので、洪水のようなイメージでダーっと水が流れ込むというようなイメージでしょうか？

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

堤防が壊れないで持ちこたえれば、乗り越えたとしてもある程度の水が防げますので、そういう意味では何もないというようなイメージになります。ですので少しイメージをお見せするために、井ノ口先生から津波の水がどんな風に地域に来るか、分かり易い図が前回の津波の県の委員会が出た図であるので見て頂こうと思います。

(委員：新潟県警察本部 伊嶋委員)

なぜそんな話をするかということ、私の新潟の部隊がまだ東日本大震災で福島県に未だに派遣されております。それで、私も福島に行って参りましたが、津波の直撃を受けた所でも、2階建てや3階建て位のしっかりした建物であれば比較的残っている。避難という事を考えた時に、浸水の高さが2階まで到達しないような場所ではどっかの避難所に移る事を考えるよりも、とりあえず2、3階の所にじっとしている方がむしろ安全の場合もあるかなと。

それから逃げる方法ですけど、昔は車はだめだというのが一般的な考え方だとは思いますが、現実には東日本の時には車で逃げる方が沢山いて、当然低い所ばかりですとできるだけ内陸の高い所となると走って逃げても間に合わないという事になる。そうすると、今は車で逃げる人と、歩いて逃げる人と、地域毎にどうするのか考えた方が良いのかなという感じが致します。以上になります。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

重要な事を何点か言って頂いて、避難行動についてはおっしゃる通りでございます。直撃を受ける所は、そのものが破壊されてしまうかもしれない。2004年の中之島町の状況で、家自体が破壊されてしまうという所は早く逃げて頂かなければいけない。それから、少し距離が離れているけど水はじわじわ来るような所については、高い場所に避難して頂く。ただ一つ津波の場合問題なのは、今この高さの家だから大丈夫だろうと思っていても地盤が沈下する恐れがかなりあるらしいという事。もしかすると、今一生懸命考えているので

すけど、あの辺りでもしかすると2階の家でも間に合わない状況が出てくるのではないかという風にも言われています。

では、井ノ口先生の方でちょっとこの地図の説明をして頂けますか？

(委員：新潟大学災害・復興科学研究所 井ノ口助教授)

(プロジェクターでGISの画面を見せながら説明)

今見て頂いていますのは、今回一つ想定に入れましようと言っておられた災害で、長岡西縁断層帯における地震時に発生する津波が、いったい何分後に到達するのかというものを可視化したものです。これを見て頂きますと、河川遡上から入っていきますので川の方、こちらが海ですが、ちょっと色を塗ってないのですが、海で赤い表示が波で直接来るような所、そのあと川を遡上して来る訳ですが、この辺りから横に漏れてきて、どんどん内陸に入ってきて、こちら新川の方からも内野駅の南の方からどんどん入ってくる。見て頂きますと、遅い所で1時間位時間的にはあるのかなと思いますが、やはり地震が起きたあと30分位、これは地震が起きてからの時間ですので、そういう意味では地震が来て、津波と認識してからだともっと時間は短いのかなとご理解頂いて良いかと思います。

これが今西区の部分ですが、中央区の方も信濃川の河口から入ってきて、その左右の方に溢れていくような感じ、こちら阿賀野川河口部ですがこのような形になっているというのが現状です。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

ここは川が大きくて、直撃を受けた直後に浸水が始まるので一様に同じようなオレンジ色になっていると。先程西区が一番分かり易いのは、川から水が来ているという事を到達の分数で示すと良く分かるという事。じゃあこれでいけば良いと思われると思うんですが、実はまだ河川遡上については今後想定が出てきて、実は地図が変わっていくと思われるので、今ご指摘頂いたポイントは非常に重要ですので、この地図が河川遡上の想定が全て終わった後は、考慮に入れながら避難地図を作る時に参考にしたいと思います。

何かご質問ございませんか？

(委員：新潟県警察本部 伊嶋委員)

再度確認なんですが、海岸部から乗り越えてくる津波はないということで理解してよろしいですか？

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

想定ですが今の所そうになっています。川を伝ってくるでしょう。もちろん直接入ってくる所はあります。

(委員：新潟県警察本部 伊嶋委員)

特にあの信濃川と阿賀野川の間海岸について、そういう事はないという事ですか？

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

海岸はあるんじゃないでしょうか？

(委員：中央区自治協議会 藤田委員)

高い砂丘がないので、そういう質問が出るんだろうね。

(委員：西区自治協議会 小柳委員)

信濃川の遡上と先程言った7番8番の連動型地震ですね。津波だけで、中ノ口川・信濃川が破堤しますと、黒埼から西区の部分の赤い部分が全て水に侵されるんですね。殆どこれに影響してないという事で、青山駅辺りから破堤して乗り越えるという想定になっていますよね。

先程言いましたように小針駅の下の方は海拔0mの所が多い。特に、新潟脳神経外科と立仏、ふるさと村付近の辺りは海拔0mですよ。ですから、これを乗り越えられると全部埋まってしまうという事がありますので、ハザードマップを作って頂けるのは有難いのですが、先程もお話ししましたように青山駅・小針駅の下に東山小学校ありますよね。それから小針小学校がある。もう少し行きますと坂井輪小学校がある。しかも西川に沿ってある。一大被害があそこに発生するだろうという事と、立仏ですね。脳神経外科に向かって立仏小学校もやられてしまうという非常に大きな問題を孕んでいるのですが、悲しい事にその小学校が全部避難場所になっているんですよ。水に侵される方に避難して行くという格好になる訳ですよ。ですから西区の方にもお願いして、何とか避難場所を見直して、新しい物にという事で検討していますけれども前途は難しいんですよ。民間の新しいビル(イオン新潟店)を作りますけれども、あれが確か20何メートル位になりますよね。ああいう所をどんどん契約をして、或いはマンションとかやらないと逃げられないと思うんですよ。特に小針駅・青山駅、1号線から海の方はですね、新潟市でも海拔が一番高いんです。特に小針駅が一番高いはずなんです。高い所というところとあそこに逃げるのが一番良い訳ですよ。ところが果たして、寺地の方から10分か20分で皆逃げられるのかと。先程警察からそういうお話がありましたけれど、避難経路が殆どない訳ですよ。しかも国道に挟まれていますから非常に厳しい状況なんですね。

ですから、これはあまり西区で煽っちゃうと西区の住民がパニックになってしまいますので、程々にしておいたらと西区にお話ししているんですけど。あそこに住んでる住民は大変な状況ですよ。その辺を西区の避難場所とあれを見直してマップを作りたいと言っていますが、今の所は具体性がないので今日は市の方のお話ありましたから西区との提携で少し上手く中身を磨り合わせて進めて貰えば有難い。今、警察と消防からありました避難経路とか色々ありますので、見てもらおうと私の方は非常に助かるという事で宜しくお願い致します。

(委員：北区自治協議会 高谷委員)

今避難場所の話がありました。高台とか高い所だとか色々出ましたけれど、そういう所がない場合、道路の関係なんです。バイパスとか高速道路とかそういう所にどうしても避難せざるを得ないだろうと。

ところが、高速道路なんかの場合は殆ど上がり口がなくて、皆金網で囲まれている。今回の東日本大震災の時も、私は仙台出身ですけど、東部道路ですか、津波があそこで抑えられた訳ですね。あそこに上がった人は助かって、西方に逃げた人は殆ど流された訳ですね。

今ここを見ると 50cm とか 1m だから津波は大丈夫だと言いますが、水が来るんじゃないかと瓦礫と一緒に襲ってくる訳です。とてもじゃないが普通の水が浸水して来たのを逃げるのとちょっと訳が違うだろうと。要するに瓦礫が集まって、何が一緒になって流れて来るのか分からないという場合に、時間的に 20 分 30 分と言えども、なかなかヨーイドンで逃げる訳にはいかないで、出来れば高速道路とかバイパスとか、非常に高く、6m7m 位高さがある所は、そこに一時的に避難するような避難場所として指定して貰いたいのですが、なかなか自動車道路なので難しいだろうと思います。どうでしょうか？

(委員：北陸地方整備局 市村委員)

先程隣の委員の方から 3.11 の時の話をされていましたが、実は「釜石の奇跡」という事で小学生がどんどん上に逃げて行ったんですが、最終的に逃げた場所というのが三陸自動車道の高速道路の所に逃げたんです。

それは、3月11日は金曜日でしたが、三陸自動車道がその1週間前の土曜日にちょうど供用開始の大々的な式典をやったんですよ。もしあれがなかったら違った展開になったと思いますが、その高速道路に子供たちが全部避難をしたと。避難をした所で、子供達がダンプの荷台に乗って、そこから最終的な避難所まで運転手さんから避難を誘導して貰って行ったという事がございます。

それを受けまして、全国で高速道路の上まで避難をしていこうという事で、高速道路に下から上がる避難路を作りまして、高速道路は当然普段は入れませんので非常時に限ってだけ中に入れるというような構造にして、全国的に、新潟の方でも作っている所です。

新潟県は地震もそうですが、所謂水害で皆さんもご記憶だと思いますが、三条の辺りで 7.13 水害 (平成 16 年 7 月 13 日) があつたと思いますが、あの時でも高盛土をしている道路は機能をきちっと果たしている訳ですよ。

ですから防災に強い道路という事で、高盛土の道路っていうのは以前から知られていたのですが、今回地震・津波の場合でも、きちっとした避難路を作っていこうという事で高速道路への避難路、それから所謂出入り制限、高盛土していない道路ですね。ああいう所に避難して頂くような事がこれからも進めていくつもりであります。ですから、先程こちらの方にありますように高速道路が近ければ、高速道路の方にすぐ避難をして頂いて、上の方に上がってそこで避難をして頂くという事もあろうかなと思います。以上です。

(委員：北区自治協議会 高谷委員)

高速道路なんかには（人を）乗せられる所は対応頂ければ市民も安心して行動できるという事ですよね。

（座長：新潟大学危機管理室 田村教授）

後 7 分位なので、お二人しゃべってらっしゃらない方がいますので井村委員にお話し頂いて、井ノ口委員の方から避難地図を作るにあたって何か活用できるような物があれば、画面を見せながらご紹介を頂きたいという風に思います。

（委員：新潟大学災害・復興科学研究所 井ノ口助教授）

私の方では、今お手元に配られているサンプルという地図の中に、避難ビルの候補だとか或いは標高だとか、そのような情報が去年の段階で新潟市さんがやられた予備調査があるそうなので、それについての情報については GIS の方で、電子地図の上に全て重ね合わせをして見れるような形にしています。

勿論県の方での被害想定というかですね、津波の被害想定が変わってきましたので、今話題にあります新しい想定におけるこれまでの検討結果との比較もできますし、或いは今後皆さまの方からご提供頂けるような候補ですね、避難ビルだとか避難場所の候補についても実際重ねてみて、皆さんで議論ができるかなと思いますので、その辺りを活用したいなと思います。

（座長：新潟大学危機管理室 田村教授）

具体的にお見せして下さい。

今作業して頂いているのは、デジタル上ですと画面にいつでも地図を重ねて透過して見る事ができますが、紙にした時に全部の情報載せると真っ黒になってしまうと思いますので、どういったものを紙に分かり易く載せていくか。勿論データ整理も重要なんですが、そういった所をイメージして頂くために、井ノ口先生には素材を見せて頂きたいという風に思います。

（委員：新潟大学災害・復興科学研究所 井ノ口助教授）

（プロジェクターで GIS の画面を見せながら説明）

予備調査として、例えば避難場所の候補に選付して上げられているような場所。津波の避難場所として、上げられているものです。中学校だとか小学校だとか何とか住宅だとか街づくりセンターだとか公的な部分が入っています。これは避難ビルですね。一部重なる部分はありますが、高い部分という事だと思いますがビルについてはこういう形という事です。民間企業さんからの避難場所候補としても、一か所だけですが少し名前も出ていますが、こういうのも見られるようになっています。

後、防災無線がヒットしていますが、どこに防災無線が位置しているか。今点だけですが、この形ももちろん変えることができます。

後、大事なのが標高 10m を超えているものだとか、6m の場所はどこかというのが地図と

して重ねられますし、その他には土砂災害だとかの危険箇所についても山間部によると思うんですけど、この辺りの情報も今載せてあるような所です。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

レイアウトって何を準備して、これが足りないからこれは避難地図に載せてくれという事であれば載せないといけないでしょうし、先程ありましたものについても凄く見にくかったですよね。全部黒の点になっていて、何が何だか分からないので。例えば公のビルは赤にしてねとか、民間のビルは緑にしてね、というような事を皆さんで決めて、紙地図にした時にどれが良いのか。先程おっしゃったように対策はどんどん進んで行くと、地域でどんどん足していきたいと思います。それを足し合わせるための紙としてはどういう物が良いのかというのは、デザインについてもできたら皆さんとも議論していきたいなと思っている所です。ですので、今回は井ノ口先生の方からきつとこういう風にしたらどうですかというご提案があるのではないかとお伝えをしておきます。

井村委員、最後になってしまったんですけどもコメントをお願い致します。

(委員：新潟市都市政策部 井村委員)

今日頂いた意見等で庁内で検討進めていかなければいけないという事ですけども、今回のマップの所で議論に時間を割かれた訳なんですけれども、そもそもマップを作る目的という所をごく当たり前に確認をした方が良いのかなと思います。

平常時において意識を高めて頂いて、市民一人一人が有事の時に自ら判断せざる得ない場合も出てくると思います。そういう事で市の「津波対策の基本的な考え方」の2つ目の中に、「率先して避難行動がとれるように」とありますけれども、そこに「市民一人一人が」という主語を入れて、そういう風に明確にした方が良いのかなとも思いました。

その中でマップをどうやって作っていくのか？その精度を上げていく事も大事でございますけれども、マップの裏側にあるアドバイスの様な事は、マップの表面にもキーワードのように簡単に一言入れていく作り方が尚良い物になっていくのかなという風に思いました。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

そろそろお時間もいいような形になってきたのですが、皆さんもまだまだご意見足りないという所もあるかと思しますので、事務局の方までお知らせ頂ければ、次回の資料も反映させて頂くという風にしたいと思います。

最後に事務局の方から今日の内容について何かコメントがあればお願いします。

(事務局：阿部危機管理監)

長時間有難うございました。

本日皆さんから頂いたご意見、ごもっともな意見ばかりでした。そもそも、今回の津波想定、そちらでも説明ありましたけれども、阿賀野川・信濃川・新川といった所謂大河川

に新川を加えただけの想定という事で、小さい川例えば通船川はどうなんだと言ったような話については、年度内に県の方から改めて知らされるという事で、浸水想定自体変わってくるという状況であります。

加えて、実は明日なんです、津波被害ビル拡大の市長記者会見をやる事にしています。非常にタイミングが悪くてここにお示しできれば良かったんですけども、そんな記者会見ないだろうという事なので、残念ながら今日具体的な情報は皆さんに公表できませんでしたが、現在の18か所から相当の数が増えていくという事。ただ、これにしても地元の皆さんからお話しありましたが、地元でやってみるとどうなんだと。或いは小学校、そもそもそれが潰れるのではないかというようなお話に対して、これがはたして避難場所としてどうなのか、避難行動としてどう考えるべきなのかと。この辺の議論は、私共はやれる所はどんどんやっておりますけれども、そういった情報を皆さんに提示する中で様々なご意見を頂いて、当面ハザードマップというのが議論の軸なんですけれども、そこにやられるべき議論というのが本当に沢山あるだろうと思います。

そういう意味で、決して今の想定が全てだとか、現在の置かれている避難所の数が全てだとか、例えば堤防がどうなんだという話も今日お話し出ましたけど、ハードの部分もこれから動いていきます。ある意味では年度内にここまでやるよっていう目標、例えばハザードマップはとりあえず作りましょうという目標がありますけれども、そこで終点ではないという事をご理解頂き、出来ればこの会議も今年度で終わりとは思っておりません。出来る所まで、ここで良いという到達点はないんですけども、ある程度全体像が見えてくる所まで皆さんからご協力頂きながら、津波対策全体を高めていくといった事を事務局として考えていますので、進め方については合意頂いたんですけども、中身の議論についてはまだ核心に触れる検討項目があるかと思っています。この辺は、次回までそれぞれの立場で色々検討頂けると有難いと思いますし、次回までにまた皆さんにご提供できる情報等ありましたら、私共の方である程度整理したものを次回出したいと考えておりますので、宜しくお願い致します。

(座長：新潟大学危機管理室 田村教授)

皆様、今日はお疲れ様でした。有意義なお話合いができました。有難うございました。次回以降も何卒宜しくお願いします。事務局の方にお返ししたいと思います。

(事務局：川村防災課長補佐)

田村座長様大変有難うございました。委員の皆様大変お疲れ様でした。後日皆様に都合確認して、座長とご相談の上次回開催の日程を決めさせていただきます。

以上をもちまして、平成24年度新潟市防災会議第一回津波対策専門会議を終了致します。本日はお忙しい所大変有難うございました。

傍聴者	0名
報道機関	10社